

第 12 章 江川東遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

江川東遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約 700 ～ 1,000 m 程下った右岸に位置している。標高 15 ～ 19 m で現谷底との比高差は 3 m を測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、右岸は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は谷頭部付近に亀居遺跡、対岸台地上に鶴ヶ舞遺跡、南側に東久保遺跡がある。

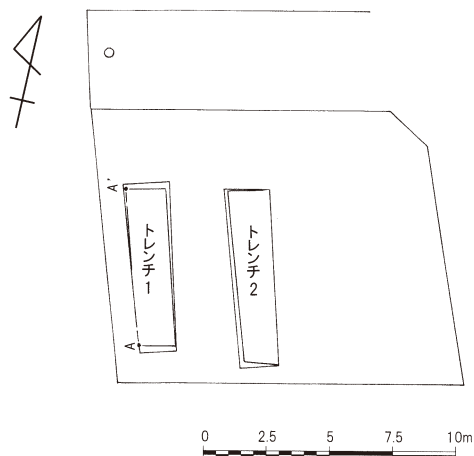
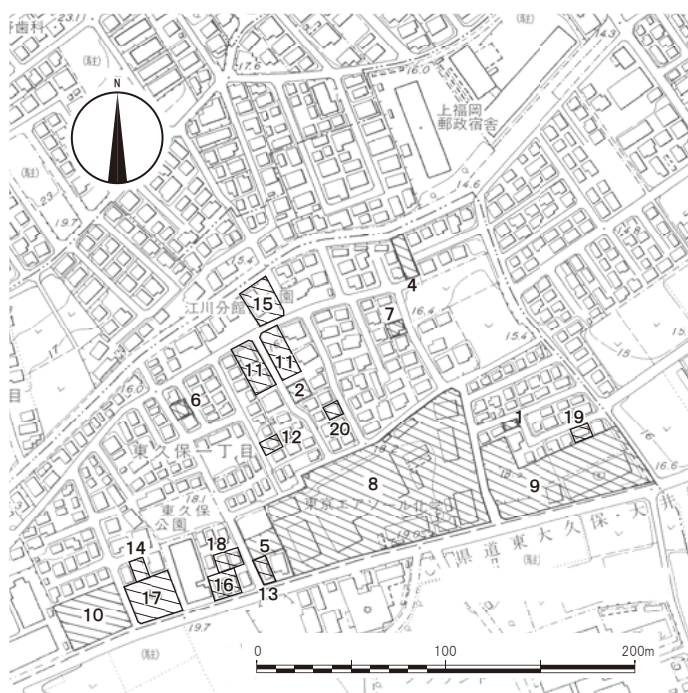
本遺跡は旧大井町の地域で最も早く市街化された区域内にあり、現在は表面採取がほとんど不可能であるが、一部残された畑地には須恵器が散布する。第 2 地点の調査では、近世の土坑・ピットを検出している。2014 年 12 月現在 23 地点で試掘及び発掘調査を行っている。

II 江川東遺跡第 18 地点

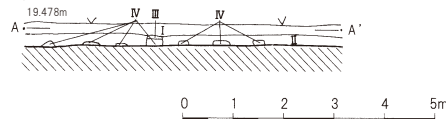
(1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より 2011 年 11 月 14 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2011 年 11 月 28 日、幅約 2 m のトレンチ 2 本を設定し重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、現地表面から約 30 ～ 40 cm の深さで地山ローム層を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、終了した。



トレンチ 1



- I. 黒褐色土 締り弱、粘性有、表土層、2mm 以下ローム粒少し含む
- II. 黒褐色土＋暗褐色土 締り弱、粘性有、ロームと黒褐色土をブロック状に同程度含む
- III. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム地山の漸移層、包含層
- IV. 褐色土 締り弱、粘性有、地山ローム

第 52 図 江川東遺跡第 18 地点の地形と調査区 (1/4,000)、調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)



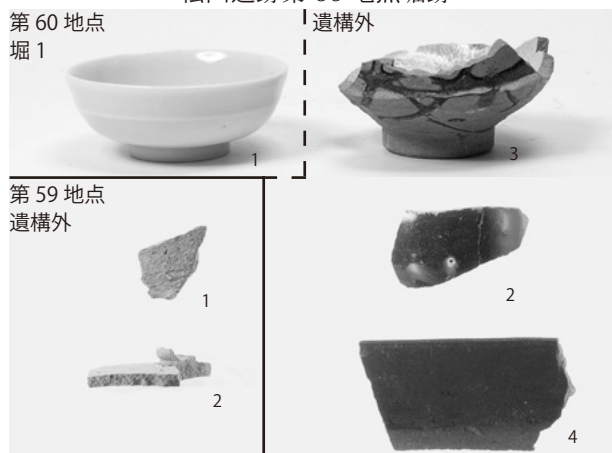
松山遺跡第 60 地点調査風景



松山遺跡第 60 地点堀跡



松山遺跡第 60 地点堀跡



松山遺跡第 59・60 地点出土遺物



城山遺跡第 2 地点調査風景



城山遺跡第 2 地点トレンチ 2



江川東遺跡第 18 地点調査風景



江川東遺跡第 18 地点近景